



図1. 低線量マルチスライスCTによる肺がん検診：肺結節の判定と経過観察 第4版 ©日本CT検診学会

§ 大きさの基準は、検診CT上での測定の際は、最大径と短径の平均値を使う。医療機関における精密検査の際の大きさは最大径を使う。
 TS-CT: thin-section CT
 増大↑: 2 mm以上
 増大↓: 結節全体2 mm以上、あるいは、充実成分2 mm以上
 * 充実成分 $\le 5\text{ mm}$の場合、原則として経過観察とする。ただし、施設の方針により確定診断も選択肢の一つである。
 ** 精密機関でなるべく早くTS-CTを撮影する。